

C-43 「まつり」に関する研究(5) 洗たく処理後のまつり部分の性能

文化女大家政 田中 綾 成瀬 信子
三重短大 ○村田 温子 橋本 貴美子

目的 先に各種番手のブロードを各種番手のカタン糸で普通まつりを行ない、まつり部分の切断状態を調べ、布に直したまつり糸について検討した。今回はそれを洗たく処理したときのまつり部分の性能変化を検討した。

方法 綿ブロード 40、60、80、100番を供試布とし、カタン糸 40、60、80番でそれぞれ普通まつりを行なった。針目の大きさは4mmから2mm 6きに12mmまで、布の織糸のすくい本数を2本とし、布のたて方向とよこ方向についてまつりを行なった。洗たく処理はうす巻式洗たく機で浴比1:30、弱アルカリ合成洗剤0.2%で、5分間強水流で洗たくを行ない、その後3分間おき、タオルで脱水、自然乾燥した。洗たく回数20回後のまつり部分の強伸度試験を行なった。また洗たく後のまつり部分の収縮性も調べ、処理前後の性能を比較検討した。

結果 1. 洗たく前後のカタン糸と織糸の強度差が、カタン糸の方が強度低下が大きい。ため、洗たく後のまつり部分の糸切れは、織糸が切断していた箇所がまつり糸の切断に変化した箇所はあるが、まつり糸が切断していた箇所が、織糸の切断に変わった箇所はない。2. 洗たく後は、カタン糸80番を用いたときは、いすれのブロードに対しても、殆ど、織糸が切断されず、まつり糸が切断される。3. まつり部分の洗たくによる収縮率は、まつり間隔が小さいときは、まつり間隔による差は小さく、まつり間隔12mmのときは、収縮率が大きくなるが、まつり糸の太さとは関係がない。